

明けましておめでとうございます。



今年もよろしく!

年の初めに思うこと

慌ただしく暮れていった年が変わり 2015 年になった。まだ 6 日だというのに、「おめでとうございます。今年もよろしく・・・」などと言いつつ、実は正月気分などはどこにもない。

それは年のせいかと思うが、若い人たちもそんな感じである。子どもの頃は、昨日と全く変わらないはずの景色を見ても、どこか正月らしい改まった空気を感じたものだった。だから 3 日と続かぬとわかっていても、毎年「今年こそは」と何やら抱負のようなものを心に念じていたような気がするのだ。

だが、心を奮い立たせて、子どもにかえて「新年の誓い」を立てるのも悪くないかもしれない。年末の総選挙の結果を見ても、現政権はますます力を得て、その政策の「実現」を強引にでも進めるだろう。「この道しかない」と言って示された政策は「共生社会」につながるかどうかだけは予見される。

共生の思想とは相容れない競争を原理とし、勝つことをめざし強さを誇る価値観を根底にするからだ。

だから、なおさらのこと、共生社会の実現をめざす我々は気を引き締め、決意をもってこの仕事に励まなければならないように思われる。それを、それぞれの「新年の誓い」として口にしないのは別にしても心の奥深く刻み込んでみてはどうだろう。

我々団塊世代 (1947~49 年に生まれた戦後のベビーブーマー) がこぞって後期高齢者になるまで、ちょうど 10 年となった。未曾有の「超々高齢社会」の到来である。そしてそれ以降 30 年近くはさらに高齢化が進み、人口の 4 割が老人になる。それが、どん

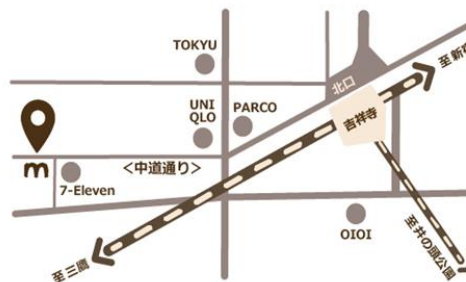
な社会か想像もつかないが避けられないことは確かだ。そんな社会に対応できるあるいは耐えられる社会システムがどうあるべきかを明らかにすることも至難である。だが、今の若者が向き合わなければならない未来はそういうことである。

今や、現役を去ったあるいは去ろうとしている団塊世代の一人として、こんな世界を次の、またその次の世代に遺していくことを恥じ入り詫びたい。

せめて、自分に今できることを少しでも真面目に取り組んでいこうと思う。この紙上などでも「分をわきまえず」エラそうなことを大きな声で語るかもしれないが、大声で謝っているのだとご容赦いただき、少しだけでも耳を傾けてもらえれば幸いです。

昴☆共生社会研究所 佐藤 進

かうんと 5 展 in 吉祥寺



2 月 16 日 (月) ~ 22 日 (日) まで、吉祥寺のマジエルカ地下ギャラリーで「かうんと 5 展」が開催されます。吉祥寺駅北口徒歩 7-8 分、よく知られている中道商店街を抜けたところで、周りはいかにも「ジョージ」(古いかな=昔はそういう言い方があった。ちなみに池袋はブクロ、新宿はジュク、銀座はザギン、自由ヶ丘はオカジュウ、二子多摩川はニコタマ・・・とか) っぽいお洒落なショップもたくさんあります。土、日とかみんな来てください。または東京近辺の知人、友人に声をかけてください。



左は、マスクマンがキャラクターに使われた医療機器メーカーのノベルティバッグ